

水抜きの手順

季節が変わり気温が低くなる冬季にお部屋を空ける場合には、給湯器の水抜きを行ってください。

【1】 水の元栓(不凍栓)をしめる

最初に、建物の周辺もしくはPSスペースにある不凍栓をしめて、水を止めてください。
お湯・水でそれぞれ不凍栓が1つずつある建物もございます。



※1 建物外にメーターがある場合

建物の玄関前(1F)や側面にある不凍栓をしめます。
蓋の側面や裏側に書いてある部屋番号を確認し
他のお部屋と間違えないよう注意しましょう。



※2 PSスペースにメーターがある場合

メーターと配管の間にある蛇口
もしくはコック状の不凍栓をしめます。
このタイプは※1の不凍栓はしめないで下さい。

【2】 止水の確認をする

室内の蛇口をあけて、お湯・水が止まったかを確認して下さい。止まらない場合は①の方法
および不凍栓がご自身のお部屋のもので間違いないか確認して下さい。

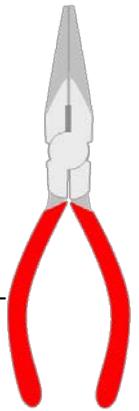
【3】 給湯器本体の水を抜く

給湯器本体と配管の付け根部分にあるネジ式の水抜き栓を外します。(※3 矢印部分)



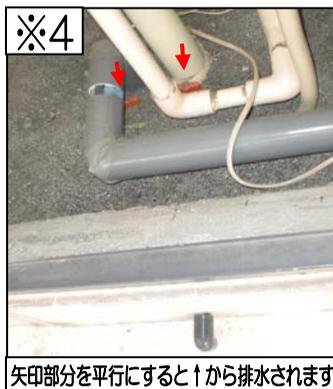
外す箇所は給湯器により
2箇所~4箇所と異なりますので
付け根部分の同様のネジ式キャップは
すべて外してください。

※固い場合がありますので、ラジオペンチやプライヤー
などご用意下さい



【4】 配管部分の水を抜く

配管下部にあるコックを管に対して平行にして下さい。内部の水がパイプ部から排水されます。



ご注意ください

- ・ブレーカーは必ずあげたままにして下さい。
- ・水抜きを怠った場合の、給湯器破損等の修理費用はすべて自己負担となりますのでご注意ください。
- ・復旧手順は裏面になります。

※水抜き完了後はお部屋の開いてある蛇口をすべて閉めて下さい。

※画像は参考資料になりますので、お住まいになられる物件の給湯器と異なる場合もございますが、手順・おおまかの位置関係に相違はありません。

復旧手順

ご帰宅後の給湯器の使用復旧手順になります。
基本的には、表面にあります水抜き手順を逆から行うようになります。

【1】 配管部分のcockをしめる

※水抜き【4】の逆手順

配管排水部から水が漏れないよう、水抜き【4】であけたcockをしめます。（※3 矢印部）



【2】 給湯器本体の水抜き栓をしめる

※水抜き【3】の逆手順

水抜き【3】で外した水抜き栓を、しっかりとしめ直します。



※固い場合がありますので、ラジオペンチやプライヤーなどご用意下さい



外す箇所は給湯器により2箇所～4箇所と異なりますので外した水抜き栓はすべてしめ直してください。

また斜めにしめてしまったりきちんとしていないと微量な水漏れの原因となる事もございます。しっかりとしめるよう注意して下さい。

【3】 蛇口がすべてしまっているか確認する

蛇口が開きっぱなしになっていると、不凍栓を開けた際にいきおいよく水が飛び散る可能性がありますので、手順【4】の前に、すべての蛇口がしまっているか確認して下さい。

【4】 水の元栓(不凍栓)をあける

※水抜き【1】の逆手順

【3】までの手順を再度確認し、水抜き【1】でしめた不凍栓をあけて下さい。



※1 建物外にメーターがある場合

建物の玄関前(1F)や側面にある不凍栓をあけます。蓋の側面や裏側に書いてある部屋番号を確認し他のお部屋と間違えないよう注意しましょう。



※2 PSスペースにメーターがある場合

メーターと配管の間にある蛇口もしくはcock状の不凍栓をあけます。このタイプは※1の不凍栓は触らないで下さい。

【5】 水を出して通水確認を行う

最後に室内の蛇口からお湯・水を数秒間出して通水確認をしてから、通常使用して下さい。